

今年度の主な取り組み（令和7年度）

【授業実践の充実と質的向上】

- ・児童生徒の思考力、判断力、表現力（問題解決力）を高める指導法の工夫
（「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取り組み）（新学習指導要領）
- ・「作文・意見文発表会」に向けての継続的で充実した作文指導（日記・作文指導、音読の継続）
- ・「書く力」の育成とそれを支える「読む力」の育成
- ・基礎基本の定着促進（各教科）※適宜小テストを実施し、学習意欲の喚起と定着を確認する
- ・校内研修会（初任者・2年次研修）の継続実施
- ・公開研究授業の継続実施
- ・学習評価と家庭啓発の継続実施（読書表彰、夏休み課題作品、学年末「漢字まとめテスト」）
- ・「海外子女文芸作品コンクール」への積極的の応募の啓発

【学部経営、学年経営、学級経営、教科経営の充実】

- ・学部経営，学年経営の充実と報・連・相（報告、連絡、相談）＋記録とチームワークの重視
- ・学級担任と専科担当との協力指導体制の確立
- ・児童生徒が居場所を感じられる学年・学級経営の実践
- ・子どもの自主性を伸ばす学級活動・児童生徒活動の充実

【児童生徒の生活指導、教育相談、進路指導の充実】

- ・基本的生活習慣の確立（「あいさつ」のできる子どもの育成）
- ・学習起立の確立（学びのルール！）
- ・思いやりの心の育成
- ・児童生徒指導の実践、判断力の育成と心の教育の充実
- ・個に応じた教育相談，進路指導の充実と計画的実践
（生徒の本校通学目的の自覚・保護者の理解）

【読書活動の充実】

- ・図書室利用の奨励と蔵書の拡充
- ・読書啓発と「朝読書」の継続実施
- ・読書表彰の推進

【保護者との連携】

- ・授業参観を実施し、保護者に日頃の補習校での学習状況を公開する。
- ・学級懇談会、個人面談を実施し、保護者と補習校（教員）の協力体制を構築する。
- ・学校だよりと学年・学級・教科だよりの創意工夫
- ・保護者と学校との意思疎通の充実（ホームページの改善と充実、学校だよりや学年・学級・教科だよりの創意工夫）
- ・授業は年間計画に位置づけて計画的に行い、講師依頼は教務会との連携のもと進める

【授業実践の充実と質的向上】

― 日々の授業実践において心がけること ―

本校は研究のテーマを

児童生徒の思考力、判断力、表現力（問題解決力）を高める指導法の工夫

― 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取り組み ―

としている。この研究テーマに添い、日々の授業づくりを意識して進めていく。

学習指導要領の理念である「主体的・対話的な深い学び」の実現のため、本校では、協働の学びを大切にしていける。全体において、グループにおいて、ペアにおいて児童生徒の動きがある学びの場を実現する。

さらに、以下の点においても、意識して授業づくりを進める。

(1) 考える手段としての日本語力を子どもたちに習得させ活用(生きて働く)できるようにする。

① 情報を取り入れる為の「読む力」「聞く力」を育てる。

② 心の中のイメージを明確にするため「書く力」「話す力」を育てる。

(2) 意欲を持って「継続的に」課題に取り組む学びができるようにする。

① 「互いの考えを聴き合う」力を育てる。

② 「発展問題」を提供し解く楽しみを得させる。

(3) 道徳心を高め居場所のある集団での学びを実現する。

① 道徳は各教科・全領域を通して指導する。随時道徳の目標に児童生徒の心を向けさせ、人として大切な心を育てる。

② 文部科学省から配付される道徳の教科書の内容は、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための教材が豊富である。朝や帰りの学級指導、学級だより等で活用する。また、家庭学習としても活用し親子で読み、考え、話し合う機会を奨励する。

― 学習評価と家庭啓発の実施 ―

補習授業校は、児童生徒の学習を評価し、学習の意欲を高める為の保護者啓発を進めていく事も大切である。そこで、次のような取り組みを進めていく。

(1) 読書表彰

① 目的 … 本校は、子ども達に多くの本に親しませることで、言語能力、思考力、記憶力などを高めるために読書活動に力を入れてきた。できるだけ多くの本を読破するための奨励の方法として読書表彰を本年度も実施する。

② 方法 … 各学部に応じた読破冊数を設定し、それを読破した児童生徒には、表彰状を授与する。

・幼稚部 100冊 ・小学部低学年 80冊 ・小学部中学年 60冊

・小学部高学年 30冊 ・中学生 20冊 ・高校生 15冊

※ この冊数を越えた園児児童生徒はその都度、読破数に応じて表彰する。

※ 多くの書籍に触れることを勧めつつ、同一の本を2回目、3回目読むことも認める。

※ 電子書籍の読書も認め、健康に留意させながら多様なツールを使用しての読書も認める。

③ 読書の期間と表彰の方法

毎年授業が始まった日から読書冊数を記録していき、2月の最終週に担任に報告があった分までを表彰する。それ以降、新年度の最初の授業日までに読んだ本は表彰の対象にはしない。校長は、該当児童の1回目の表彰について各クラスで表彰する。2回目以降の表彰については、各ク

ラスの担任が表彰する。

(2) 海外子女文芸作品コンクール

- ・日頃の学習で習得してきた知識を活用し、児童生徒の生活に視点を据え、習得してきた表現力を通して、自分の生活を綴り、子ども達の目を自分が生きる社会に向けさせ誇りを持たせる。
- ・本年度の応募形式は、学校応募とする。
- ・結果については、全校生の励みになるよう学校便りで知らせる。

(3) 夏休み課題

夏休み課題は下記の目的に則って取り組ませる。発表等については各学年、教科で2学期の授業の中で対応する。

① 目的

- ・小学部と中学部の理科と社会科の宿題に進んで取り組ませる。
- ・多くの児童生徒が自分以外の児童生徒の作品を鑑賞することを通して、新たな発見、学習のテーマ、研究の仕方、報告の仕方など、多様な学習内容があることに気づかせる機会とする。

② 内容

- ・小学部課題作品 … 生活科2年、理科3年～6年の宿題、社会科5年・6年の宿題
 - ・中学部課題作品 … 理科の宿題（1～3年）、社会科の宿題（1～3年）
- ※ 2学期に「学級内発表会（教科授業）」の時間を1時間程度設ける。

(4) 作文・意見文発表会

① 目的

- ・発表会という言語活動を通して、児童生徒の学習や生活で培われた力を活用させ、文章表現力や発表能力の向上を図る。
- ・友だちの考えや意見を聞き、社会的視野を広めたり、考えを深めたりする。
- ・発表を通してお互いの良さを認め合い、友だちや家族など、周囲との絆を深める。

② 内容

○ 幼稚部

「ぼく・わたしの好きなもの」について書いた文と絵で書いた自分の顔を見せて、全員の前で発表する。

○ 小学部

㊦ 作文、感想文、日記等を各学級で発表し合う。（必要に応じ学年テーマを設定する）

① お互いに聞いて感想を出し合う。

㊦ 学年に応じて相互評価をする。

○ 中学部

㊦ 「意見文」を各学級で発表し合う。

① 相互評価をする。

○ 高等部

㊦ 「意見文」を各学級で発表し合う。

① 相互評価をする。

(5) 全校一斉「漢字まとめテスト」

① 目的

- ・ 児童生徒に漢字学習の目標を持たせ、年間を通して漢字習得のため努力をうながす。
- ・ 児童生徒の漢字力を把握し、その後の指導にいかす。

② 実施日

- ・ 小学部から高等部まで、すべての学年において3月第1週（令和7年度は3月7日）に実施。

③ 内容

- ・ テストは50問。書き取りテストとする。

④ 採点（普段の授業活動では、教科書体のとめ・はね・はらいをきちんと指導する）

- ・ 1問2点、100点満点とする。
- ・ 字体（漢字の骨組み）があていれば△とし、1点とする。
- ・ 教科書体に準じて、とめ・はね・はらいがきちんと書けていれば○とする。

⑤ 各クラスの試験の結果は素点を一覧表に記し、教頭まで提出する。

- ・ 卒業式、修了日の前の週まで（令和5年度は3月9日まで）に提出する。
- ・ 結果をその後の指導に役立て、次学年へ児童の学習状況の資料として送る。

⑥ その他

- ・ テスト問題は当該学年1年間で学習する漢字について、担当学年・教科担当で相談し、作成する。
- ・ テストの予告は年度当初から行う。テスト対策のための学習プリント（そのまま出題）は用意しない。

(6) 「児童生徒・保護者意識調査」の継続

- ・ 昨年度、再開した「児童生徒・保護者意識調査」を継続実施し、調査結果を本校教育活動を評価する資料とし、本校の教育活動の改善を進める。

(7) 「スポーツお楽しみ会」の再開

- ・ 昨年度中止となった「スポーツお楽しみ会」を、今年度は小学部行事として実施する。
- ・ 実施に当たっては、商工会の支援をいただく。